



県政においては、昨年七月に発生した豪雨災害の早期復旧・復興予算を含む平成三十年度予算特別委員会を合わせての二月議会が、二月二十六日から三月二十八日まで開催されます。

初心を忘れず、「八女地域の命を守る」、「地域の活性化をはかる」ために、皆様の代表としてしっかりと発言してまいりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

同期を五十七万人上回る三五一四万人となり、総人口に占める割合は、二十七・七%と過去最高を更新しております。また、日本の高齢者の割合は、先進七ヶ国の中でも最高であり、二位イタリアの二十三・〇%とは四・七ポイントの差があり、世界に類を見ないです。

スピードで、高齢社会へ進行しています。

そこでまずお聞きしますが、本県の県内四地域ごとの六十五歳以上の高齢者数と総人口に占める割合についてお伺いします。併せて、国内で行われている生産活動に就いている中核の労働力となる十五歳以上、六十五歳未満の年齢に該当する人口である「生産年齢人口」についても、県内四地域ごとの人口と占める割合につ

福岡県議会議員

# きりあけ和久

# 県政報告

## 第11号

ご挨拶

福岡県議会議員  
桐明 和久

皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、国政においては、平成三十年度予算九十七兆七一〇〇億円余の予算審議が行われております。更なる地方の景気回復と魅力ある雇用の場の創出の為にも、早期の成立を望むものであります。今回の国会開会中において審議される重要な課題の一つに憲法改正があります。戦後七十年間、一度も戦争をすることがなく今日の平和があります。一方、国内外の情勢の変化に伴い、世界の中から日本のあるべき姿について、国民全体で考える重要な機会であると思います。政権与党である我が自民党は、特に大きな責任があり、しっかりといた、国民に分かりやすい議論を期待します。

県政においては、昨年七月に発生した豪雨災害の早期復旧・復興予算を含む平成三十年度予算特別委員会を合わせての二月議会が、二月二十六日から三月二十八日まで開催されます。

初心を忘れず、「八女地域の命を守る」、「地域の活性化をはかる」ために、皆様の代表としてしっかりと発言してまいりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

平成二十九年度 九月定例議会  
(九月十一日～十月十三日)

一般質問  
高齢者が活躍できる  
社会づくりについて

桐明  
自民党県議団の桐明和久です。通

告に従い、一般質問を行います。

九月十八日(月曜日)は、「多年にわたり社会につくしてこられた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことを趣旨とする「敬老の日」であります。大曲副知事も久山町久原(くばら)の安川マス工さん(九十九歳)宅を訪問されて、首相名の祝い状や銀杯を渡されたとの記事を見ましたが、県内各地で祝賀会が開催されたようであります。

総務省が、本年九月十七日に公表した六十五歳以上の高齢者の推計人口によると、九月十五日時点での前年同期を五十七万人上回る三五一四万人

桐明

我が国

が

六十五

歳

以上

を

高齢者

と

定義

し

た

昭和三十一年

に

よつて

高齢者

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

と

さ

れ

る

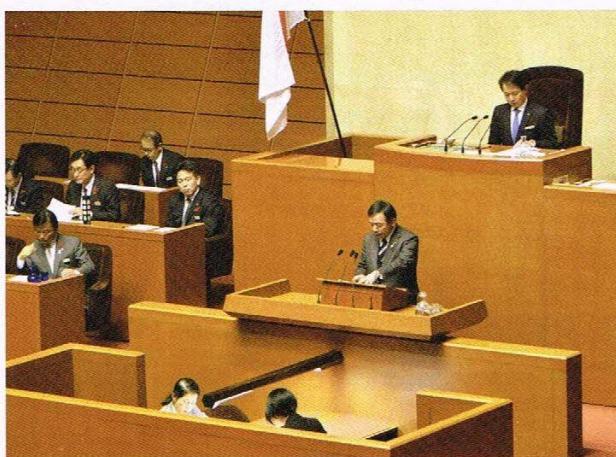
と

さ

れ

る

と



ております。わが国では、世界に類を見ない少子高齢化が進行し、地域社会の活力をいかにして維持していくかが、喫緊の課題となつております。一方、高齢者の八割以上の方は、要介護・要支援の認定を受けていないなどお元気で、また、約七割の方は、「働きたい」「社会の役に立ちたい」という意欲をお持ちであります。そのような思いに応え、高齢者が年齢にかかわりなく、それぞれの意思と能力に応じて活躍し続けることができるよう、就業や社会参加への支援や社会の意識改革などを進めていく必要があります。

桐明

少子高齢化の進行にともない労働力である生産年齢人口が減少する中、昭和二十五年代に、生産年齢人口十二・一人に対し一人で支えていた高齢者を、六十五年経過した平成二十七年には、二・三人で一人を支える状況になつております。

一方、高齢者の多くは、六十五歳を過ぎても、「元気で働けるうちは、地域で活躍したい」「何か社会のために役

立ちたい」と考える高齢者の就業が進んでいます。

高齢者が働くことにより、これまで長きにわたり現場で培つてきた経験や豊かな知識、熟練の技術・技能等の多様な能力を有効活用し、後継者の育成など次世代への継承が出来るばかりでなく、本人にとつても生きがいや健康の維持・増進が図られ、結果として、就業率の高い地域は、要介護(支援)認定率が低くなる結果が表れています。また、高齢者の就業拡大は、地域の活性化やコミュニティの維持・存続、合わせて所得の向上や活動の活発化により、消費の拡大にもつながると言われております。

そこでお尋ねしますが、高齢者が働くことにより、つまり「支えられる側」からだけで見られていた高齢者が、「支える側」に回ることによる地域への効果について、お聞きします。

服部副知事

これまで、「支えられる側」であつた高齢者が、その力を存分に發揮し、「支える側」として活躍することができれば、社会経済の活性化に寄与するとともに、社会保障制度における、現役世代の負担軽減や制度運営の健全化につながることが期待されます。また、高齢者が社会の一員として活躍することは、生きがいや誇り、健康の維持増進にもつながるものと考えております。

桐明

福岡県では、超高齢化社会への対応として、全国に先駆けて「七十歳現役社会」づくりに取り組んでおり、高齢者のための支援拠点として、県内四ヶ所に「福岡県七十歳現役応援センター」があります。四地区ごとの支

援の現状、併せて県内それぞれの地域の現状に合った支援をするには、市町村との連携が重要であると考えます。また、その連携状況についてお聞

きします。

## 服部副知事

七十歳現役応援センターの取組実績と利用者増加に向けた市町村との連携についてですが、七十歳現役応援センターでは、就業やボランティアなどの社会参加の相談に来られた方の経験や技能、体調等を丁寧に聞き取り、多様な選択肢を提案したうえで、マッチングを行つております。また、企業を訪問し、求人開拓や七十歳まで働く制度導入の働きかけも行つており、高齢者の活躍の場の拡大に努めています。

こうした取組みにより、平成二十四年度から二十八年度までの五年間で、一万九二七人の方に登録いただき、四八九九人の方の進路が決定しました。また、求人開拓は、一九九四社、四三〇四件にのぼり、四七二社が七十歳まで働く制度を導入いたしました。さらに多くの県民の皆様にセンターを利用してくださいためには、市町村との密接な連携が重要であると考えます。

このため、センターでは、市町村との共催で、「しごと・ボランティア合同説明会」を県内四地区で開催するほか、市町村の要請に応じて市役所などに派出窓口を設置しております。また、市町村に対し、チラシやリーフレットの配架、ホームページ等への掲載依頼を行うほか、市町村等が主催する「高齢者が多数集まるイベント」や「就職についての合同相談会」等におきましてブースを設置し、センターのPR活動を行つております。このように、地

元の市町村ときめ細かく連携し、取り組みを進めているところであります。

七十歳現役応援センターの利用実績についてですが、平成二十八年度末までの利用実績は、福岡オフィスでは、登録者が五三五六人、進路決定者が二五三三人、北九州オフィスでは、登録者が二八〇七人、進路決定者が一三八七人、久留米オフィスでは、登録者が一七九〇人、進路決定者が八七一人、飯塚オフィスでは、登録者九七四人、進路決定者が三八八人となつております。

## 服部副知事

福岡県総合計画では、十の柱の一つとして、高齢者が元気で活躍する社会づくりを目指し、七十歳現役社会づくりを推進することとしております。その中で、七十歳現役応援センターによる進路決定者数を目標値に設定しております。この目標達成に向けて、センターの認知度をさらに高めて、利用実績を増やしていくとともに、官民が一体となつて高齢者の活躍の場を拓げ、一人でも多くの高齢者のみなさんが、生き生きと活躍できるよう、七十歳現役社会の実現に向けてしっかりと取り組んでまいります。

桐明

今回の質問は、「高齢者が活躍できる社会づくり」について質問してきました。

私の地元八女市・広川町の生産年齢人口を見てみると、福岡県全体の五十九・〇%に対し、八女市は、五・五%のマイナス、広川町は、一・九%のマイナスとなつています。しかし、

地域は、伝統工芸や自然に恵まれた環境の中で、一次産業などを中心とした産業で生計を立て、地域の伝統文化を継承し、次世代に引き継いで行こうと高齢者が頑張っておられます。

**決算特別委員会においての  
農林水産部 関連質問**

中山間地域農業を振興するための県としての新たな取組について

## 質問

担い手の極めて少ない中山間地で

は、地域の農地を荒らさず、守つておいてに高齢者の方々が頑張つておられます。荒廃農地が増えると、病害虫の温床や野生鳥獣の棲み家となり、周囲の農地や作物にも大きな被害を及ぼし、そのためにはさらに荒廃農地が増えるという負の連鎖が生じます。ただでさえ生産条件が不利なこの地域で、高齢者に代わり農業を担う新規参入者が入つてくることは一層難しくなるため、荒廃農地の再生は、避けて

います。

そのためにも、県においては、これから担つていく若者への支援も大切であります。今を担つている高齢者に対しても支援が必要であると思

います。

## 今!! 八女・動く

通れない重要な課題であります。このような中、現地の農家からは、荒廃農地を再生し、果樹園等に整備する際に活用できる事業が必要という声も聞かれます。

そこでお尋ねしますが、県は、中山間地域の荒廃農地の再生に向けて、どのように取り組んでいかれるのか、お聞きします。

## 農林水産部農山漁村振興課長

県では、国の荒廃農地等利活用促進交付金を活用し、先ほど委員がおっしゃいました、現地で頑張っておられる高齢者や新規参入者等の耕作者が行う雑草や雑木の除去、整地作業などの再生活動を支援するとともに、土地の条件に適した作物の選定や栽培指導を行っております。今後も引き続き、この交付金の活用等により、荒廃農地の再生に取り組む耕作者を支援してまいります。

決算特別委員会 総務部  
防災通信ネットワーク  
整備について

桐明

さて、七月五日に豪雨災害が発生し、即座に設置した「自民党県議団平成二十九年度九州豪雨災害対策本部」にて、現在の被害状況報告を受けています。パトロールに出た朝倉県土整備事務所職員と連絡が取れなくなつ

県政の重要な課題の一つであり、特に、いつ、どこで発生するかわからない各種災害から、県民の生命、生活・財産を守るために、災害に対する予防等の防災対策の強化や防災に関する情報の収集・伝達手段の整備は、重要な政策であります。

まず、現在の福岡県の「県防災・行政情報通信ネットワーク」はどうなつているのか、概要をお聞きします。

## 総務部防災危機管理局防災企画課長

「県防災・行政情報通信ネットワーク」は、県庁と県出先事務所や市町村・消防本部あるいは、県公用車等との間を結ぶ通信網であります。主回線は、「地上無線回線」、副回線は、「衛星無線回線」として、通信回線の二重化を図っております。

桐明

今回発生した平成二十九年度九州北部豪雨災害において、「県防災・行政情報通信ネットワーク」は、有効に機能したのかお聞きします。

## 防災企画課長

今回の豪雨災害においては、気象台からの情報を各市町村や消防本部へ一斉に送信する通信手段として利用されました。また、庁舎が停電し、電話回線が携帯電話・固定電話とも不通となつた東峰村役場については、唯一の連絡手段として、県防災・行政情報通信ネットワークによる電話とFAXが機能いたしました。

桐明

さて、七月五日に豪雨災害が発生し、即座に設置した「自民党県議団平成二十九年度九州豪雨災害対策本部」にて、現在の被害状況報告を受けています。パトロールに出た朝倉県土整備事務所職員と連絡が取れなくなつ

ているとの報告を受けましたが、その状況についてお聞きします。

## 防災企画課長

七月五日の午後、朝倉県土整備事務所の職員三名が、道路パトロールで県道「安谷赤谷（やすたに・あかたに）」線の道路巡視を行つて、いたところ、豪雨により通行不能となつた箇所に阻ま

れて、車で移動することが出来なくなり、車載無線も、携帯電話も通じなかつたため、徒歩で移動して、空き家の軒下で一夜を過ごし、翌朝八時三十分頃に携帯電話で通話できる場所まで移動し、事務所に無事である旨の報告を行つたとの事であります。

桐明

なぜ、パトロールカーの車載無線が使えないのか、お聞きします。

## 防災企画課長

道路パトロールが足止めされた地点は、山蔭になつており、電波の届きにくい地帯であつたことが原因であります。

桐明

今回の豪雨災害において、県防災・行政情報通信ネットワークは、有効に機能したのかお聞きします。

桐明

さて、七月五日に豪雨災害が発生し、即座に設置した「自民党県議団平成二十九年度九州豪雨災害対策本部」にて、現在の被害状況報告を受けています。パトロールに出た朝倉県土整備事務所職員と連絡が取れなくなつ

かない」、「特注品が多く、整備費と維持費が高価」等の課題があります。このため、現在、ネットワーク全体の再編成を行つており、再整備後は、光回線の直接接続による高速・大容量化や設備の簡素化が図られ、このような課題はほぼ解消できるものと考えています。なお、通信可能な範囲

については、現在、県道での通話可能な範囲は、理論値で概ね九十七%であります。再編後には、概ね九十九%カバーできることとなります。

次に、「防災・行政情報通信ネットワーク」の再編成に要する経費であります。本年度に、施工業者と契約を行い、主回線である光回線及び防災情報報システムの工事を開始します。来年度に、主回線と防災情報システムの供用を開始するとともに、防災危機管理局を移設・拡充いたします。工事費の内訳は、主回線光回線設備工事三七〇〇万円、防災危機管理局の移設・拡充を含む防災情報システム等の設備工事三十六億八八〇〇万円、副回線（無線回線）設備工事三十二億九三〇〇万円となっております。なお、総額約七十億円のうち、県の負担額が、六十一億余、市町村の負担額が八億円余となつております。

桐明

「防災・行政情報通信ネットワーク」の再整備に際しては、通話が可能な工場リヤが広くなるよう工夫した設計としております。加えて、道路パトロールカーについては、車から取り外して使用できる「可搬型の車載無線機」を導入することとしております。

## 防災企画課長

仮に通話ができない地域に足止めされたとしても通話の出来るところまで徒歩で移動することにより、通信が確保できるようにしてまいります。

桐明

車から取り外して使用できる車載無線機を導入するということですが、緊急の場合に現場で実際に使用できるようにするためには、地域ごとの不感地帯の認識と日々の訓練が重要であると思いますが、どのように

いて、「ドクターへりの無線整備について」質問しました。その中で、八女の一部、大牟田市のほぼ全域、みやま市の山川町などで、ドクターへりと地上の消防隊などとの無線通信が出来ない不感地帯が存在することを指摘しました。

この時、知事は、「卓上型移動局無線機などにより、通信が確保できる」と答弁されております。

今回は、ドクターへりとは別の無線システムの問題ですが、山間部の不感地帯という点では、問題の根幹は同一であると思いますが、県としてどう考えるのかお聞きします。

桐明

この時、知事は、「卓上型移動局無線機などにより、通信が確保できる」と答弁されております。

システムの問題ですが、山間部の不感地帯という点では、問題の根幹は同一であると思いますが、県としてどう考えるのかお聞きします。

## 防災企画課長

「防災・行政情報通信ネットワーク」の再整備に際しては、通話が可能な工場リヤが広くなるよう工夫した設計としております。加えて、道路パトロールカーについては、車から取り外して使用できる「可搬型の車載無線機」を導入することとしております。

仮に通話ができない地域に足止めされたとしても通話の出来るところまで徒歩で移動することにより、通信が確保できるようにしてまいります。

にあたっては、専用の操作マニュアルを作成し、担当者に対する説明会を開催するとともに機器を実際に操作する訓練を行い、機器が適切に運用されるよう取り組んでまいります。

桐明

最後に、「県防災・行政情報通信ネットワーク」における県内の山間部の通信手段確保について、部長の決意をお聞きします。

総務部長

今回の豪雨で発生した、県の防災行政無線が、電波状況の悪い山間部において通話ができなかつた事例に関しては、現在行つてある県防災・行政情報通信ネットワークの再整備により、ほぼ解消できるものと考えております。さらに、通話できない場合であつても、通話できる場所まで徒步で移動して利用できる可搬型の車載無線機の導入を図つていて、山間部の通信手段を確保してまいります。

桐明

山間部の通信確保では、通話ができる場所まで徒步で移動するとの事ですが、これでは、今回の朝倉県土整備事務所と同じことが起こりうると考えます。

是非、知事の考え方をお聞きしたいと思いますので、知事保留の取り計らいを、委員長お願いいたします。

平成二十九年度

決算特別委員会 建築都市部

## 積算単価の設定について

桐明

建設業界は、近年の建設投資の減少や職場環境の改善が進まないことなど

ラリンピックまで、あと一〇二四日あまりとなりました。話題となりましたメイントークとなる新国立競技場は、二年後の二〇一九年十一月完成に向かって、急ピッチで工事が進められております。

建築都市部が発注する公共工事においても、計画から工事の完成まで、数年かかる工事もあると思いますが、その工事はどのような工程で行われ、また、その期間は、どのくらいかかるのか、お聞きします。

## 建築都市部 営繕設備課長

建築工事の工程は、施設管理者と設備内容を協議し、予算や工程などを検討したうえで設計を行い、その後に工事を発注し、進捗を管理し完成に至ります。完成までの期間は、規模により異なりますが、概ね設計で一年から二年、工事も一年から二年程度です。

桐明

どういう点に注意をして建築工事の発注を行つているのか、お聞きします。

## 営繕設備課長

建築工事の発注にあたっては、建築物の品質が確保されるよう、適切な工事の設定や適正な予定価格の設定に努めています。

桐明

厚生労働省が九月二十九日に発表した八月の有効求人倍率は、全国で一・五二倍、福岡県でも一・五一倍と水準を維持しておりますが、建設業界への影響とその要因についてお聞きます。

します。

## 営繕設備課長

有効求人倍率が高い状況において、

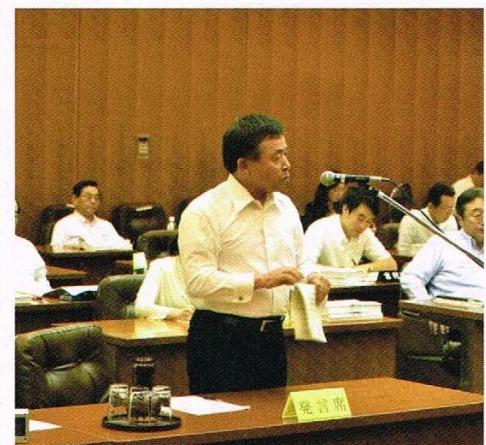
建設業界は、近年の建設投資の減少や職場環境の改善が進まないことなど

により若手入職者が減少しており、技術者や技能労働者等の確保が困難となることが考えられます。

このことから、今後予定価格に大きな影響を与えるような見積もり単価を採用しております。入札不調

算し、予定価格を設定しております。予定価格を設定するための単価は、毎年国が示す労務単価や実際の取引価格を反映した刊行物に掲載されております。また、刊行物に掲載されていない単価については、専門業者から見積もりを取り、ヒアリングを行つてお聞きします。

桐明



## 営繕設備課長

労務単価については、国の改定に合わせて速やかに見直しを行つております。また、刊行物単価のうち、コンクリートや鉄筋等の主要資材単価は、平成二十六年二月から毎月見直しを行い、その他の単価についても三ヶ月ごとに見直しを行つております。さら

桐明

に、一般競争入札については、設計から入札まで期間を要することから、入札前に最新の単価に見直して、予定価格を設定しており、実勢単価を反映しているものと考えております。

桐明

最後に、部長の決意をお聞きします。

## 建築都市部

設計単価の設定についてでございます。改正品確法の趣旨であります

桐明

「将来にわたり公共工事の品質を確保するためには、その扱い手の中長期的な育成・確保が不可欠であります。そのためには、適正な利潤の確保が出来ます。そのためには、適正な利潤の確保が出来るよう、委員ご指摘のように施工実態などを的確に反映した積算を行い、予

桐明

の改定に合わせて、速やかに見直しを行い、また、主要資材については毎月、その他の単価についても三ヶ月毎に、

実勢単価に合わせる見直しを行つておきます。今後、刊行物に掲載がなく、専門業者からの見積もりを徴収する

ものについても、より実勢価格が反映されるよう、その徴収手法や採用単価

いということを聞いております。県も努力していることはわかりますが、今後さらにどのように対応されるのか、お聞きします。

## 営繕設備課長

先程申し仕上げましたように、予定価格を設定するための単価は、国が示す労務単価や実勢単価を反映した刊行物単価、及び専門業者からの見積もり単価と差が生じております。

このことから、今後予定価格に大きな影響を与えるような見積もり単価につきましては、見積もりの微収方法や採用単価の決定方法について、検討を調査したところ、県が設定した見

積もり単価と差が生じております。

この案件においては、業者の見積もり単価を採用しております。入札不調

の案件においては、業者の見積もり単価を採用しております。

このことから、今後予定価格に大きな影響を与えるような見積もり単価につきましては、見積もりの微収方法

につきましては、見積もりの微収方法について、検討を調査したところ、県が設定した見

積もり単価と差が生じております。

## 今!! 八女・動く

について検討を進め、更なる予定価格の適正化に取り組んでまいります。

**桐明**

部長の決意はわかりましたが、今議会において六四三億円余の補正予算を組み、被災地の復旧・復興に全力で取り組んでまいります。そうすると、より厳しい人材の確保、つまり、人件費の上昇が見こまれ、復旧・復興の遅れにつながるのではないかと懸念されます。

是非、知事の考えをお聞きしたいので、委員長、知事保留の手続きをお願いいたします。

**平成二十九年度 十二月定例議会**

(十二月一日～十二月二十日)

**一般質問 (十二月十一日)**

**廃校施設の活用による  
地域の活性化について**

**桐明**

自民党県議団の桐明でございます。通告に従い質問いたします。

さて、皆さんにとりまして学校は、どのような場所でありますか。県内のそれぞれの地域環境によって、また、年代層によつては、校舎の造りは、木造の時代から鉄筋コンクリートへと変化がありました。それでの年代に過ぎた大切な場所、特に小学校は、義務教育のスタートとして六年間学んだ場所であり、数多くの思い出がある場所ではないでしょうか。

また、地域の皆様にとつても学校は、長い伝統歴史があり、慣れ親しんだ、なじみ深い、たくさんの思い出がつまつた、愛着のある貴重な場所でもあります。しかし、そんな学校も少子高齢化が進む中で、人口減少が続いており、地域を担う若者の減少と共に、

子どもの減少、つまり学校に通う児童数が減少しております。このことは、地域に存在した学校が、統廃合などにとつての元気、活力も一緒になくなってしまうのではないかと、不安になります。

そこでまず、教育長に、本県内の公立小中学校の廃校数の状況についてお聞きします。

次に、文部科学省が、平成二十八年五月に実施した「廃校施設等活用状況実態調査」によると、現存する廃校施設のうち約七割が様々な用途に活用されているとの事であります。

示す意味は、全国においては、廃校施設の約三割が活用されていないとのことです。

そこでお聞きしますが、県内ではどのような状況なのでしょうか。県内の活用されていない廃校施設の数となぜ活用されないのか、その理由についてお聞きします。

**城戸教育長**  
本県では、平成二十四年度から平成二十八年度までの過去五年間で、三十四校が廃校となつております。そのうち十五校が社会体育施設や企業等の施設として活用されております。八女市黒木町にある笠原東交流センター「えがおの森」では、都市住民と農山村をつなぐ場として、棚田での稻作、茶摘み、山仕事などの様々な体験活動を通じて、地域住民との交流を行つております。

また、上毛町の西友枝体験交流センター「ゆいきらら」では、都市住民との交流会に加えて、地域の高齢者が健康チェックやレクリエーションを行うサロン、地元の食材を活かした居酒屋を開くなど、地域住民が集う拠点になつております。いずれの施設も、旧小学校区の住民の皆さんのが主体となって、地域の特色を活かした運営が行われており、このような形で廃校施設を有効活用することは、地域の活性化にとって大いに意義があると考えております。

**桐明**  
次に、学校のある場所は、子ども達が歩いて通える場所にあり、その通りです。

私の地元であります八女市は、平成十八年に上陽町と、平成二十二年に黒木町、立花町、星野村、矢部村と合併

されております。でありますから、学校が統廃合等でなくなることは、地域ごとに学校があり、学校行事にも町内全体行事として積極的に参加し、支援して参りましたが、子どもの減少により、やむにやまねず学校が統廃合さ

れ、伝統のある学校が廃校となつてお

り、貴重な財産である廃校の有効活用に向けた検討がなされております。そ

れぞの地域の状況により、廃校を活

用しての企業等の誘致による雇用の創出・地域経済の活性化も必要であります。

併せて、県内にそのような事例があ

れば合わせてお聞きします。

そこでお聞きしますが、地域の貴重な財産であります廃校施設を地域全体の活性化の拠点として活用すべきであると考えますが、廃校を有効活用することの意義についての認識をお聞きします。

**小川知事**

県内においても、廃校となつた学校施設が地域の皆さんのが創意工夫によつて様々な用途に活用されておりま

す。八女市黒木町にある笠原東交流セ

ンター「えがおの森」では、都市住民と農山村をつなぐ場として、棚田での稻作、茶摘み、山仕事などの様々な体験活動を通じて、地域住民との交流を行つております。

私は、昨日、築上郡上毛町にある「西友枝体験交流センター ゆいきらら」を訪問いたしました。校門の先には、懐かしい木造の校舎があり、正面玄関

横に創立一〇〇周年の記念碑が在りました。事務局長の末松さんにお話を聞くと、「この校舎は、西友枝小学校と

して明治七年に創立され、以来、一三六年間で一〇八四名の卒業生を送り

だし、長い間地域の人々の心の拠りどころとなってきた学び舎でした」とのことでした。

施設内教室の活用状況など案内してお聞きしました。

平成二十二年三月に開校が決定し、一年前から検討してきた結果、地元の七割を超す方が木造のまま残して

いる活用を望まれ、翌年より八八〇〇万円かけて校舎の耐震化等改修を行い

平成二十四年度完成したとの事であり、「これからが大変ですが、この素晴らしい豊かな山里の恵みに、ふるさと

し、四八一・四四平方メートルの広域になりました。それぞれの町・村の地域ごとに学校があり、学校行事にも町枝のかつて学び舎だつた校舎に、再び笑い声があふれるような施設に、地域の皆さんと共にいていきたい」とのことでした。

そこでお聞きしますが、まずは、地

域の方々が地域の活性化となる拠点として廃校の有効な活用に向けて考

えていただき、その計画による地域の活性化に向けた市町村が行う廃校の活用について、県はどのように支援を

していくと考えなのか、お聞きします。

**地域の活性化は、福岡県政の重要な課題**

題の一つでありますので、地域で頑張っている皆さんが集う、地域にとって大切なコミュニケーションの場となることが意義深く、重要であると考えます。

私は、昨日、築上郡上毛町にある「西

友枝体験交流センター ゆいきらら」を訪問いたしました。校門の先には、懐かしい木造の校舎があり、正面玄関

横に創立一〇〇周年の記念碑が在りました。事務局長の末松さんにお話を聞くと、「この校舎は、西友枝小学校と

して明治七年に創立され、以来、一三六年間で一〇八四名の卒業生を送り

だし、長い間地域の人々の心の拠りどころとなってきた学び舎でした」とのことでした。

施設内教室の活用状況など案内してお聞きしました。

平成二十二年三月に開校が決定し、一年前から検討してきた結果、地元の七割を超す方が木造のまま残して

いる活用を望まれ、翌年より八八〇〇万円かけて校舎の耐震化等改修を行い

平成二十四年度完成したとの事であり、「これからが大変ですが、この素晴らしい豊かな山里の恵みに、ふるさと

の家に帰つて来たような、どこか懐かしい場所として感じていただき、西友

枝のかつて学び舎だつた校舎に、再び笑い声があふれるような施設に、地域の皆さんと共にいていきたい」とのことでした。

そこでお聞きしますが、まずは、地

域の方々が地域の活性化となる拠点として廃校の有効な活用に向けて考

えていただき、その計画による地域の活性化に向けた市町村が行う廃校の活用について、県はどのように支援を

していくと考えます。

**小川知事**

市町村においては、先程述べました

ように、廃校を地方創生の拠点として

整備するという事例も多くみられま

す。県では、市町村の地方創生の取組

を支援するために設置したワントス

ップ相談窓口において、廃校施設の活

用方法の相談に対しては、先進事例の紹介を行うほか、活用にあたつての課

題解決に向けた助言を行つております。

また、具体的な取組の実現に欠か

せない財源の確保についても、地方創

生推進交付金をはじめとした各種助

成制度について、情報提供を行つてお

ります。さらに、NPOや自治会、まち

づくり団体等、地域づくり活動を行つ

ている団体が参加する「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の研修会に

おいても、優良事例や運営手法などを紹介する等、市町村やまちづくり団体の取組をしつかり支援してまいります。

## 農林水産委員会管内視察（行橋農林事務所管内）平成29年7月11日～12日



### 1. 行橋農林事務所

- 管内農林業の概要  
水田率89%で、米を中心とした土地利用型農業が主体。  
総農家数は、10年間で32%減少、特に販売農家が35%減少。  
農業就業人口のうち65歳以上が76%（県全体60%）で、高齢化が進行。  
米・麦を中心とし、園芸品目は、イチジクが県内で主産地である。  
果樹では、新規品目としてキウイフルーツ（甘い）を推進している。  
林業においては、ヒノキの成長に適しており、ヒノキの割合が65%（県平均42%）と高い。

### 2. 等覚寺特産グループ

- （農産加工による中山間地域の活性化の取組について）  
(京都郡苅田町山口)  
○グループ員5名、パート5名  
味噌、野菜の味噌漬け、ゆずごしょう  
○売上3,500万円

○古くから家庭に伝わる伝統の味を守っており、材料にこだわって、ゆっくりと熟成させて出荷している。

○交代制の勤務（8時～12時、13時～16時30分）により、年間を通じて味噌の製造販売・加工の受託（72t）を行っている。

○店舗販売のほか、JA直売所への出荷や宅配も実施している。

○年間を通じての作業により、等覚寺地区（12世帯24名）の雇用の場を創出している

### 3. 京築地域のモデルとなる果樹複合経営

（橋口俊徳氏）

○本人、妻（雇用1人）イチジク36a、もも8a、なし20a、キウイフルーツ19a

○イチジク、もも、なしの組み合わせで、収穫時期と農作業を分散化

○JA共販と自宅での直売、農産物直売所への出荷を組み合わせて有利販売。

○主力であるイチジクと労力競合のないキウイフルーツ「甘い」を導入。

○果樹サポート部の中心メンバーとして、高齢者の



剪定作業等を受託し、产地を維持している。

○キウイフルーツの輸入花粉対策について、行橋農業高校生徒の協力による、花粉の国内安全花粉生産体制づくりと後継者育成づくりに取り組んでいる。

### 4. 森林管理道「蔵持山線」（重要文化財への配慮）

○蔵持山付近の町指定重要文化財について、一部橋梁を設置し、現状のまま保存した。

○平成28年度10月に全線完成した。

### 5. 農事組合法人 済営農組合（営農組合における6次化商品の開発と女性職員の活躍）（築上郡築上町大字漢）

○組合員 58名 水稲17.3ha、麦25.6ha、大豆

18.9ha、ナタネ7.6ha 等 計70.7ha

○加工品 ナタネ油、エゴマ油、ドレッシング、ボディソープ

○女性1名、男性2名を職員として採用。女性職員は、組織運営に係る様々な業務を任されており、特に、商品開発や販路開拓に能力を発揮している。



## 農林水産委員会管外視察（石川県、富山県）平成29年11月15日～17日

### 1. 道の駅「高松」（石川県かほく市ニッ屋）

- 地域防災力の向上と活性化を図るために拠点として活用している。
- 石川県立看護大学の学生が柔軟な発想でアイデアをだし、商工会が実践し、行政が支援していく体制を構築している。

### 2. 七尾市の木造・木質化の取組について

- 七尾市中心市街地観光文化センター（七尾市馬出町ツ部）
- 木造平屋建て

（展示棟458.77m<sup>2</sup> 交流棟296.97m<sup>2</sup>）

○木材利用量 265m<sup>3</sup>

（県産材243m<sup>3</sup> 主要樹種能登ヒバ、スギ、ベイマツ）

- 伝統的な七尾町屋をイメージした木造瓦葺平屋2棟が建設されていて、外部に町屋の特徴である板張り、袖壁、格子を設置し、内部通路は、ダイナミックな梁構造（見せ梁）など木組みの美しさを光らせている。

### 3. 水産物の販売促進について

- （新湊きっときと市場富山県射水市海王町）
- 富山県西部の事業者や個人が出資して「新湊うまいもん株式会社」を設立し、資本金2億円で平



成23年4月にオープン。

○直営レストランと浜焼きの他、鮮魚や特産品などを販売するテナント6店の計11店舗が営業し、6億7,000万円を売り上げている。

### 4. 女性の活躍促進と6次産業化の取組について（有限会社 梅香園 砺波市庄川町天正）

○梅本恵子氏と夫の秀孝氏で経営。

○平成14年に「有限会社梅香園」を資本金300万円で設立し、水稻・大豆の種子、野菜、花きを生産（約20ha）、直売所、カフェ経営を行っている。

○自社農園直売所では、寄せ植え等の講習やハーブコーディネーター、アロマテラピーの指導員資格を取得して教室を開催している。

○イチゴの観光農園や花きハウスの通路を広く取り、車いすのまま楽しめるように配慮しており、県内外の障がいを持つ方々が大型バスでお見えになり、自分で直接収穫できることが大人気だそうです。

### 5. 社会福祉法人や農村ボランティア等と連携した野菜生産について（小池赤土野菜組合 石川県金沢市小池町九）

### 6. 米と野菜の複合経営と6次産業化の取組みについて（小林正治氏 金沢市八田町東）

○家族4人（本人、妻、長男夫婦）で、48ha（自作地10ha、借地38ha）の規模で水稻43ha、ブロッコリー2ha、スイカ1.5haなど、家族経営としては、有数の大規模複合経営を実現、また、正月用餅やかき餅の加工・直売など6次産業化の取組も積極的に取り組んでいる。

○水稻は、肥料を苗箱に混ぜ込む「苗箱全量施肥法による育苗技術の開発」により、作業を省力化。

○スイカは、果実の摘果作業を効率化し、作業時間を短縮。

○かき餅などもち米を加工・直売することで高附加值を実現（加工用もち米約1万円/60kgが、かき餅約10万円）

○平成6年集落の有志で「八田町稻作請負組合」を設立し、冬機関の働く場として「金沢もちの里」の立ち上げと運営をし、12月からは正月餅、1月からは、かきもちづくりをおこなつている。

○販売は、JA金沢市農産物直売所「ほがらか村」、JAグリーン金沢などの地元を中心に注文販売をおこなっている。



## 知事のふるさと訪問（広川町）平成29年11月30日 木曜日

福岡県小川洋知事のふるさと訪問が、広川町で開催されました。当日は、福岡県農林水産部主催の福岡県産米地産地消PR(知事と給食を食べる「元気つくし」給食)事業も行われ、上広川小学校を訪問しました。

まず、中村校長先生より、学校の概要説明として学校と地域・家庭とのかかわりについて説明を受け、その後、体育館に移動して、5年生、6年生児童との「知事と給食を食べる『元気つくし』給食」が行われました。まず、児童代表歓迎挨拶の後、班に分かれての食事会が行われました。児童たちの話によると、週3～4回はご飯の給食である事や給食がおいしいとの事でした。全員での「いただきます」のあいさつの後、「今日の献立」の放送もあり、おいしくいただきました。「ごちそうさま」のあいさつの後、全員で記念撮影を行いました。

広川町渡邊町長から小川知事への町の概要説明と県への要望を受け、その後、元気が出る介護予防教室(特別養護老人ホーム若久園)、冷凍・レト



ルト食品の製造・販売を行っている広川工業団地内にある九州ベストフーズ株式会社、ひろかわ藍彩市場を訪問後、広川町産業展示会館にて、活躍されている方々との意見交換を行いました。商工会青年部の坂田和生部長は、ゆるキャラ「広川まち子ちゃん」等による町のPR活性化や国際交流協会の塙澄文子副会長からは、留

学生との交流やホームステイ受け入れによる国際交流・理解の推進について、広川町消防団原和敏副団長からは、防犯教室等による防犯活動について、久泉地区まちづくり委員会綾戸信之委員長、樋口リカ文化部会長からは、地域コミュニティ推進事業による子ども食堂「ふれあいのひろば」事業について、里の駅「広川くだもの

村」の経営者中村淳一・裕季子夫妻からは、栽培しているフルーツの加工・直売を元にした地域の活性化活動の報告をうけました。広川町の現状と課題をお聞きして、小川知事より、地域での活躍に対しての感謝の言葉と国や県の色々な制度の活用による更なる地域の活性化についての協力のお願いがありました。



## 農林水産委員会九州北部豪雨災害被害状況調査報告（朝倉市・東峰村） 平成29年8月1日

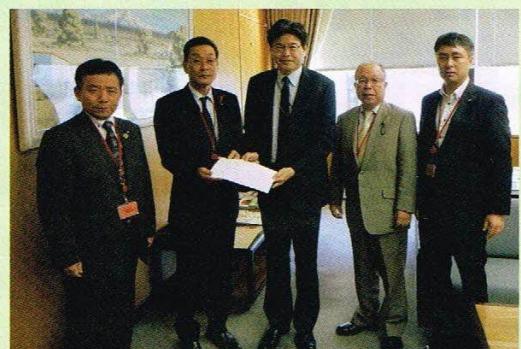
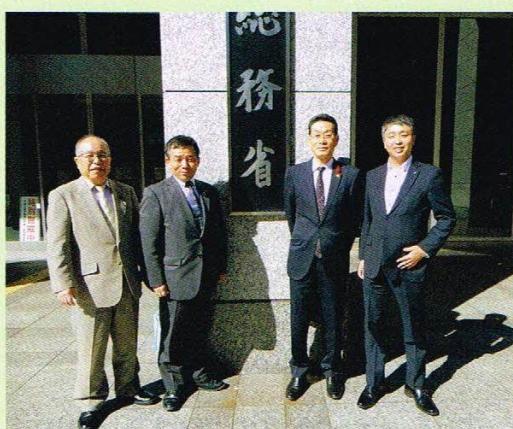
- 1.朝倉市杷木星丸（イチゴハウス倒壊被害状況と生産者との意見交換）  
 ○赤谷川の氾濫により、農地の流出や土砂・流木の流入、ハウスの倒壊等の被害が発生している。  
 ○現状では先が見えず、生活の支援と災害復旧の両面での支援が不可欠である。
- 2.東峰村役場宝珠山庁舎（溢谷博昭村長との意見交換）  
 ○8月8日現在 人的被害 死者3名、負傷者2名  
 家屋の損壊 全壊24棟、半壊36棟、一部損壊 12棟  
 道路、橋梁 道路損壊72箇所、道路埋没9箇所、橋梁流失5箇所、橋梁損壊2箇所  
 水道断水 30世帯

- 3.東峰村大字福井猿喰（山腹崩壊被害状況、治山ダム調査）  
 ○昭和45年に治山ダム2基が完成後、平成27年度事業として治山ダム1基完了していた為、流木が治山ダムで止まり被害を免れた。
- 4.朝倉市杷木古賀（上野ため池堤体一部損傷、土砂堆積被害状況調査）  
 ○上流より大量の土砂や流木の堆積により、堤体の一部が損傷した。
- 5.朝倉市役所本所会議室（森田俊介市長との意見交換）  
 ○朝倉東部 7月5日9時間で700mmの豪雨  
 死者28名、不明者6名  
 ○水害、土砂、流木により、田・畠の650haが被害を受けている。  
 (水田の1/3に当たる450haが被害を受けている。)  
 ○山腹崩壊により、果樹園への道が崩壊し、出荷が出来ない状態である。  
 ○農地の集積事業等、希望の持てる復旧事業を、国や県にお願いしたい。



九州北部豪雨災害の被災地（朝倉市）を視察

## 過疎地域活性化対策福岡県議員連盟要望報告 平成29年10月30日 月曜日



福岡県議会 過疎地域活性化議員連盟 国への要望活動（総務省）

### 平成29年度過疎対策事業の同意等予定額の状況（第1次分）

福岡県内には、第1次分として150億7600万円となっております。内八女市に対しては、26事業で15億2980万円となっております。主なものは、下記の通りです。

◆山村滞在施設整備事業	1億7720万円	◆稻富地区道路整備事業（福島39号線他）	1億4350万円	◆林道千々谷・滝の脇線用地取得事業	4340万円
◆八女東部スポーツ公園クラブハウス整備事業	1億5000万円	◆市道古野麻生線道路改良工事	4300万円	◆公共下水道事業	9770万円
◆市道宮ノ原東西線道路改良工事	1億2520万円	◆林道二田坂・国武線用地取得事業	4220万円	◆八女西部広域事務組合基幹改良事業費負担金	5億4460万円



## シアトル・タコマ福岡県人会創立110周年及びバンクーバー福岡県人会創立35周年記念式典訪問団報告

平成29年 8月17日～8月23日

福岡県では、海外県人会との絆をより強固なものとするために、周年記念式典に県訪問団を派遣することとしており、今回、アメリカ合衆国シアトル市、カナダ・バンクーバーで開催された創立記念式典に、副知事、副議長と他会派代表者3名と共に自民党県議団会長代理として、8月17日から8月23日までの7日間参加しました。



山田洋一郎在シアトル日本国総領事

17日は、福岡空港より成田へ移動し、出発式の後、シアトル・タコマ国際空港に向けて出発しました。到着後、山田洋一郎在シアトル日本国総領事を訪問し、「ワシントン州と日本・福岡県の関係」や現地情勢についての説明と意見交換を行いました。その後、在シアトル日本国総領事主催セブションが開催され、シアトル・タコマ福岡県人会創立110周年式典実行委員長の玉井グレン純夫氏(本籍立花町谷川)をはじめ、地元有識者等、総領事館からの招待者約40名との意見交換が行われました。

18日は、今回同行していただいている全日空株式会社執行役員九州支社長の宮川純一郎氏のご尽力により、三菱航空機(株)モーゼスレイ



シアトル・タコマ110周年式典



シアトル総領事館訪問



シアトル総領事館ブリーフィング



シアトル・タコマ

ク・ライトテストセンターを訪問しました。移動時間約3時間30分の中で、道中の景観では、広大な牧草地で長さ100mぐらいの散水機での水撒き状況やコーン畑など、スケールの大きさに驚きました。ちなみに、日本への輸出については、農作物は第2の海外市場として、干し草は46%を占めるそうです。

三菱リージョナルジェット(MRJ)は、三菱航空機が開発を進めている国産初のジェット旅客機であり、座席数70～90席で近距離路線の運航に適しており、同サイズの機種に比べ燃費性能が2割程度すぐれており、航続距離は、最大約3380km、三菱航空機が設計・営業等、三菱重工が機体製造を行っています。初飛行は、平成27年11月11日に行われ、MRJの受注状況は、平成29年7月現在8社447機(確定発注数243機)となっています。

福岡県北九州空港の活用については、平成26年2月12日に三菱重工が、MRJ量産に向けた拠点展開構想を発表し、ライト関連(飛行試験、駐機等)は、名古屋空港とサブ拠点として北九州空港を活用としています。平成27年12月には、MRJ用格納庫の建設が始まり、29年1月に完成。現在、駐機用エプロンの整備が進められています。製造されている工程や仕上がり試験が繰り返されているANAの機体を見学し、合わせて試験を行っている滑走路も見学しました。



モーゼスレイク・ライトテストセンター



モーゼスレイク

19時より、リバー・ロック・グリル・レストランで、シアトル・タコマ福岡県人会との交流会が、福岡県主催で開催され、玉井グレン純夫氏他県人会より14名の参加がありました。

19日は、シアトル市内視察後、シアトル・タコマ福岡県人会創立110周年記念式典に参加しました。式典には、在シアトル日本国総領事の山田洋一郎氏もご出席いただきました。シアトル・タコマ福岡県人会は、1907年に創立され、現在会員数55名です。平成25年10月に福岡で開催された福岡県人会世界大会に参加された玉井会長は、ゆかりの地である八女市を訪問され、九州北部豪雨で被災された子ども達を励ましたと、八女市の中学生をシアトルに招き、玉井会長宅でのホームステイをしながらの交流プログラムを実施(平成26年7月20日～27日の8日間)していただきました。私も地元議員として、お礼と記念品の目録を贈呈させていただきました。



シアトル・タコマ110周年式典(玉井親子とともに)



平成30年1月22日に立花町にある先祖墓参りに来日されたシアトル・タコマ福岡県人会の玉井前会長歓迎会で記念の名入り八女提灯を贈呈

20日は、バスにて約4時間で、カナダ・バンクーバーへ移動し、バンクーバー福岡県人会創立35周年記念式典へ参加いたしました。清田勝会長（本籍福岡市博多区）の下、現在会員数80世帯100名で活動されております。在バンクーバー日本国総領事館首席領事の内田晃氏の出席をいただき、県人会の活動内容紹介など和やかに交流が行われました。

21日は、在バンクーバー日本国総領事公邸を訪問し、岡井朝子総領事主催の歓迎会・意見交換会を行いました。総領事は、在スリランカ日本国大使館公使を経て、2016年4月に初めての女性バンクーバー日本国総領事となられており、1989年に外務省に入省後、在外公館勤務はバンクーバーが6か所目とのことで、国際的な視野での有意義な意見交換が出来ました。記念品として、八女茶を贈呈いたしました。その後、日経文化センター・博物館を視察後、県主催のバンクーバー福岡県人会との交流会に参加いたし、大曲副知



在バンクーバー日本国総領事館訪問



バンクーバーの日本国領事館公邸を訪問し、岡井朝子総領事へ「福岡の八女茶」贈呈



事より、災害義援金へのお礼と次世代の子どもたちの福岡への思いの継承のお願いに対し、清田勝会長からは、35周年出席のお礼と信頼を深め子どもたちと福岡をつなぎ、育っていくとの挨拶をいただき、他県人会の出席の皆様とバンクーバーの現状などについて意見交換を行いました。

22日は、ジェトロ・バンクーバー事務所長の酒井拓司氏から、カナダ及びバンクーバー、トロントに関する現地事情の説明をしていただき、福岡



バンクーバー福岡県人会清田勝会長へ「福岡の八女茶」贈呈



ジェトロ・バンクーバー酒井事務所長へ「福岡の八女茶」贈呈



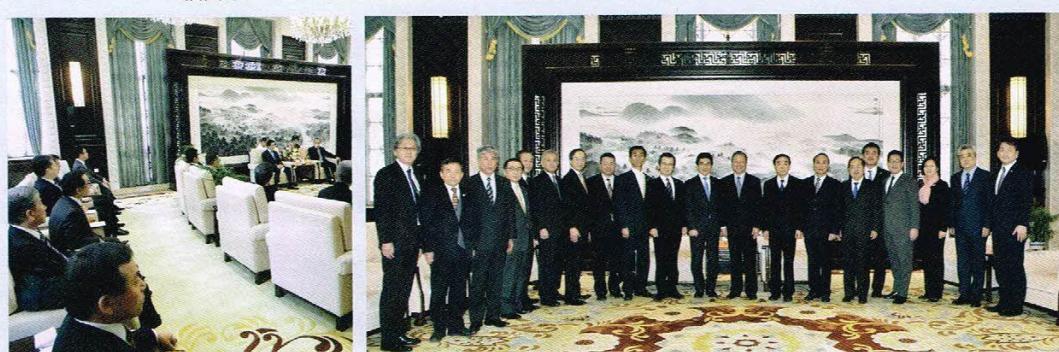
県との現状など意見交換を行いました。お礼として、八女茶を贈呈しております。

その後、16時15分発でバンクーバーを立ち、翌日の23日21時45分に福岡へ帰ってきました。

## 福岡県・江蘇省友好提携25周年記念訪問団 平成29年12月21日～12月24日



福岡県と江蘇省との友好提携協議書署名式を行う小川知事と呉政隆江蘇省長



江蘇省人民代表大会を表敬する福岡県訪問団

福岡県と中国・江蘇省との友好提携から今年で25周年を迎える江蘇省と友好関係の発展を盛り込んだ協議書を交わすほか、記念事業や日本企業の工場視察等を行なうために、小川知事、県議会より樋口県議会議長他12名、経済界より石原進九州経済連合会副会長他9名が出席をしました。

21日は、14時30分発の中国東方航空にて上海空港に15時15分に到着後、バスに揺られて南京市に23時に到着しました。

22日は、何振良（かしんりょう）駐福岡中華人民共和国総領事も同行していただき、南京博物館を視察後、江蘇省人民代表大会を表敬訪問し、趙鵬（ちょうほう）常務委員会副主任他7名に対応いただきました。冒頭、趙副主任より7月に発生した豪雨災害に対してお見舞いと一日も早い復興に対し、お言葉をいただき、福岡県と江蘇省との現状と友好25周年の意義についての会談を行いました。その後、江蘇議事園にて江蘇省人民代表大会主催歓迎会が開催され歓談しました。14時より福岡・江蘇友好桜花園を視察し、友

好提携関係のさらなる発展に関する協議書署名式が行われる人民政府に移動しました。署名式ではまず、吳政隆(ごせいりゆう)江蘇省長から、「もっと豊かな成果を期待する意味でも、人民政府での調印式を行うことは意義があります。企業のマッチングや人的、スポーツ、文化、青少年の交流を大いに期待します」との挨拶があり、続いて小川知事からは、「25周年の友好提携により、人と人、地域と地域との交流を進めていきたい」、樋口県議会議長からは、「お互いの次の世代を担う若い世代の交流を行っていきたい」、経済界からは、石原進九経連副会長が、「観光面で、多くのお客様が中国からクルーズ船でおいでいただいているが、個人客も増やして行きたいので、直行便をお願いしたい」との要望に対し、検討するとの返答をいただきました。引き続き福岡県側より小川知事、江蘇省側より吳政隆省長において署名が行われ、その後、江蘇省主催の福岡県・江蘇省友好提携25周年記念懇親会が開催されました。

23日は、常州市にある安川電気(北九州市)の安川機器人有限公司を視察いたしました。生山武史有限公司董事長のご挨拶の中で、「経済・技術等のスピードの速さ、中国のマーケットはロボット(自動化)に進んでおり、電機化のわが社は、95%の部品は中国で作成している」との事であ



八女市関係者・吳中区長とともに

りましたが、労働力の確保には苦労しているとの事でした。工場見学においては、自動化と技術者育成のための人力による二つのラインがありました。また、現在の第1・第2工場に加えて、現在第3・第4の新工場の建設がおこなわれていました。

その後、蘇州工業園区、第一シルク有限公司の視察後、蘇州市主催の夕食会に出席しました。

中国側より、葉兆偉副主任、王衛国蘇州市吳中区副区長他の出席の中、和やかな意見交換等、歓談が行われました。

24日は、福岡県・江蘇省友好茶会記念式典がロイヤルチューリップ蘇州で行われ、福岡県観光連盟によるプレゼンテーションの後、福岡県茶生産組合連合会の仁田原寿一事務局長より、「福岡の八女茶」のプレゼンテーションが行われました。その後、八女茶による茶会と中国茶による茶



「福岡の八女茶」のプレゼンテーションを行った県茶連の仁田原事務局長



中国茶による茶会風景

八女茶を使用した茶会風景  
会や楽器演奏等が行われ、大いに茶会が盛り上がりいました。

今回の江蘇省訪問で感じたことは、国家主導による中国の目覚しい発展と巨大な経済力に驚きと、更なる中国との民間交流の必要性を強く感じました。



安川電気中国法人の工場を視察

## 要望活動・懇談



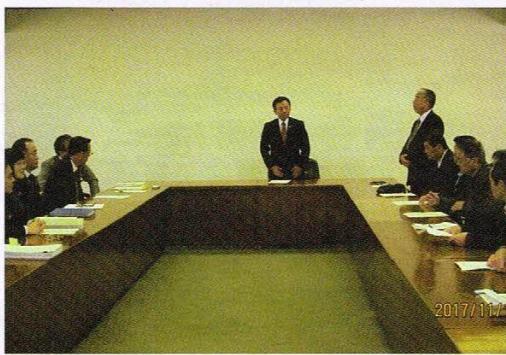
2017年7月19日 八女市へ表敬訪問された中国、蘇州市吳中区人民政府王衛星副区長他訪問団の皆さん



2017年8月2日 広川かすり祭開会前に広川町の観光振興について懇談(産業展示会館内)



2017年10月12日 広川町商工会理事会で挨拶(産業展示会館)



2017年11月14日 農政連黒木地区から県農林水産部への要望活動同行(福岡県議会会議室)



2017年11月23日 JAふくおか八女キウイフルーツ部会総会にて意見交換(立花出荷場)



1月12日 浮羽石川内線期成会、星野、矢部各支所による要望を受ける県議

## 地域のみなさんとともに



2017年 7月23日 犬山ダムブラックバス釣り大会

2017年 9月10日 白木スポーツフェスティバル  
(旧白木小グラウンド)

2017年 10月1日 三河校区 区民運動会



2017年 10月8日 宅間田区民運動会



2017年 10月8日 大杣公園祭(矢部村同公園)



2017年 10月27日 仏壇供養祭(八女伝統工芸館)



2017年 10月29日 第1回豊福まつり(豊福公民館)



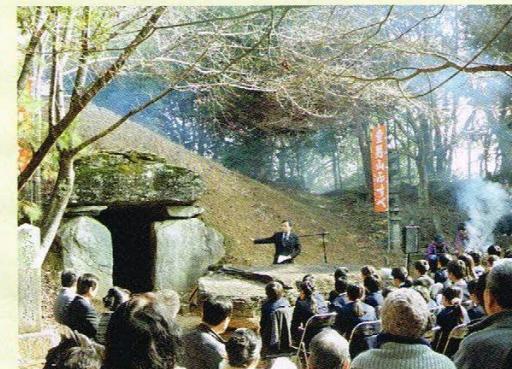
2017年 11月3日 旭座人形芝居本公演(黒木町同会館)

2017年 11月4日 第2回かわさきよか祭  
(山内水天宮広場)2017年 11月19日 第16回(株)明治旗争奪少年野球  
新人大会(西短大附高グラウンド)2017年 11月26日 八女文化連盟／総合美術展  
表彰式(社会福祉会館)

1月6日 八女市消防出初式(上陽町春の山公園)



1月7日 長峰校区ホッケンギョ(吉田区内広場)



1月20日 童男山ふすべ(山内同古墳)



1月26日 ハイジ福祉会ぜんざい会(同八女作業所)